

【中日文化センターだより】

栄中日文化センターで十月から始まった日本文化の根源に迫る二つの講座が人気を集めている。「千利休・わび茶の心」「南方録」を「読む」と「武士道の聖典『葉隠』を読む」で、いずれも古典翻訳家の水野聡さん「写真」が、原文と自らの現代語訳を使って講義する。

授業は原文を音読しながら進める。「声に出して読む」ことにより原文を目と口でなぞり、理解を深めます」と水野さん。前回の「花伝書」に続き、水野さんが千利休理解の早道と見る「南方録」と武士道の

エッセンスを最高度に表現した「葉隠」を取り上げた。日本文化を構成する、世に成立した武士道、茶道、能、書、絵画の根底には禅的なものがある、と水野さんは見る。ただ難解な禅書を読み解くのは難しい。「武士道、茶道、能などの書を通して、その精神文化の根底にある禅文化を一緒に勉強しましょう」

「葉隠」は第一木曜午後一時からで五カ月分一万二千二十五円。「南方録」は同午後三時三十分からで五カ月分一万一千二十五円。問い合わせは、同センターフリーダイヤル(012-0)538164へ。




代語による全文訳本を出版しており、当時の風俗、しきたり、人間関係など、分かりやすく解説してくれる。

1月から毎月第4木曜日の夜に行われる精読会の参加者は毎回平均、10人程度。男性が6割、女性が4割で、60、70代が中心だ。

精読会では参加者が1人ずつ、段落ごとに音読をする。いわゆる「候文」を、声に出して読むことで、背筋がぴんと伸び、気持ちもすっきりするとの声も。

「葉隠」精読会 日本文化に目覚める

今回が2回目の参加という伊東孝司さんは「新現役世代は日本文化に改めて目覚める世代だと思う。葉隠の精読は地味だけれども、日本人のルーツや伝統の重みがかかる。本当に価値のあるものをきちんと継続して学ぶことが大切だと感じた」と話している。

新現役ネットの活動の一つに、武士道の聖典とされる「葉隠」の精読会がある。現代日本が失ってしまったもの、そして今の日本に最も必要とされるものを毎回、テーマとして取り上げ、葉隠の200におよぶ名言・名句の中から、えり抜きを金言を紹介・解説する趣向だ。

葉隠は江戸元禄期の佐賀鍋島藩、山本常朝の物語。藩士の田代陣基が7年もの歳月をかけて聞き書き、編纂した。もともと有名な名文が、聞き書きにある。「武士道」というのは、死ぬことを見つけたら、日本文化の精髓、日本精神の原形がここにありとされている。

最近では熟読にとどまらず、葉隠に関する日本文化の逸話などを紹介するコーナーを設け、当時の武士の教養とされた仕舞、能などをビデオで鑑賞している。

■新現役ネット 中高年世代を支援するNPO法人(特定非営利活動法人)。国内最大の中高年世代コミュニティづくりを目的し、勉強・講演会や自然体験など各種イベント、インターネットを通じた情報発信などの活動を行っている。理事長は国際問題アドバイザーの岡本行夫氏。事務局 ☎03・5730・0161。